

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名： 三浦 真紀

事業名	一般国道506号 <small>とみぐすくひがし</small> 豊見城東道路		事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自： <small>おきなわけんとみぐすくしな</small> 沖縄県豊見城市名嘉地		至： <small>おきなわけんはえぼるちやうやまかわ</small> 沖縄県南風原町山川		延長	6.2km
事業概要						
豊見城東道路は、那覇空港自動車道の一部を形成し、那覇空港へのアクセス向上に資するとともに、那覇都市圏の交通混雑の緩和を目的に計画された、2環状7放射道路として、地域の産業、観光及び地域振興プロジェクト支援を目的とした道路で豊見城市名嘉地から南風原町山川に至る延長6.2kmの高規格幹線道路である。						
H3年度事業化		H2年度都市計画決定		H5年度用地着手		H9年度工事着手
全体事業費	約1,230億円		事業進捗率	86%	供用済延長	6.2km
計画交通量	38,600台/日					
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年		
	(事業全体) 1.4 (残事業) 3.7	(残事業)/(事業全体) 172/1,542億円 事業費：154/1,496億円 維持管理費：18/46億円	(残事業)/(事業全体) 642/2,212億円 走行時間短縮便益：548/1,796億円 走行経費減少便益：54/259億円 交通事故減少便益：40/157億円	平成22年		
感度分析の結果						
残事業について感度分析を実施						
交通量変動	B/C=2.5 (交通量-10%)		B/C=5.1 (交通量+10%)			
事業費変動	B/C=3.4 (事業費+10%)		B/C=4.1 (事業費-10%)			
事業期間変動	B/C=3.6 (事業期間+20%)		B/C=3.7 (事業期間-20%)			
事業の効果等						
①円滑なモビリティの確保						
<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞損失時間削減量：【整備なし：579万人時間/年→整備あり：416万人時間/年】 ・旅行時間の短縮：西原JCTから那覇空港（第二種空港）までの所要時間が短縮【供用前：56分→将来完成供用：21分】 ・旅行時間の短縮：那覇空港から本島北部、中部への速達性・定時性向上。那覇空港から海洋博記念公園（美ら海水族館）への所要時間が短縮【供用前：141分→将来完成供用：106分】 						
②暫定供用の効果						
<ul style="list-style-type: none"> ・並行路線である国道329号の上間交差点、仲井真交差点の渋滞が緩和 ・名嘉地交差点の渋滞が解消 						
③個性ある地域の形成						
<ul style="list-style-type: none"> ・豊見城市は都市成長力ランキングで全国787都市のなかで1位。 						
④安全で安心できる暮らしの確保						
<ul style="list-style-type: none"> ・豊崎タウンから県立南部医療センター（三次医療施設）までの所要時間が短縮【現況暫定供用：27分→将来完成供用：25分】 						
⑤地球環境の保全						
<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量が0.7万t/年（約0.3%）削減【206.4万t/年→205.7万t/年】 						
⑥生活環境の改善・保全						
<ul style="list-style-type: none"> ・NOX排出量が20.9t/年削減（約8%）削減【250.7t/年→229.8t/年】 ・SPM排出量が2.2t/年削減（約10%）削減【23.6t/年→21.4t/年】 						
関係する地方公共団体等の意見						
那覇空港自動車道は、那覇空港と沖縄自動車道を結ぶ、高規格道路であり、車社会である本県の振興発展に極めて重要な役割を担うものである。						
現在、暫定供用している豊見城東道路は、既に供用している南風原道路や今後整備予定の小禄道路と併せて那覇空港に接続することにより、那覇空港アクセスの高速性、定時性の確保、都市部の混雑緩和、更には、観光振興並びに産業振興に寄与する道路である。平成20年3月の全線暫定供用後には、周辺一般道の渋滞が緩和されるなどの事業効果が発現されており、事業の投資効果の有効性が明らかになっている。						

